

日時	令和5年 10月 15日(日) 10時～ 16時30分
会場	施設名 韮山時代劇場(伊豆の国市)
入場者数	120人
実施内容・成果	<p>地元高校生／一般参加による東アジア文化都市に関連する研究・活動に関するのポスター発表を行いました。そして第二部として、この地域の「食文化」を歴史から紐解くと同時に、未来に向けてビジョンを語りました。第三部はインド、中国、韓国を經由して伝わり、今も息づく「伊豆仏像文化」に着目し、その魅力と活かし方について熱く討論していただきました。</p> <p>◆ポスター発表 担当者:中江章喜、小川行平        &lt;実施内容&gt;        9:30-11:50 ショートプレゼンテーション @大ホール</p>   



9:00-15:00 ポスター展示 @大ホールロビー  
12:40-13:40 コアタイム発表 @大ホールロビー



15:30-16:00 表彰式 @大ホール



全部で16の発表があり、一般/研究、一般/活動、高校/研究、高校/活動のカテゴリの発表数は、各々3、6、6、1でした。

各々の発表は以下の通り。

**【一般/研究】**

- (1) ピロリ菌で探る日本人の起源(遺伝研)
- (2) KeTCindyJSを用いた数学html教材の実装について(沼津高専)
- (3) 茶園上方からの写真画像を用いた新葉の生産量と成分の解析(沼津高専)

**【一般/活動】**

- (4) カリフォルニアで生きる日系アメリカ人の足跡を訪ねて(順天堂大学)
- (5) 保健室の現状と現在までの取り組みについて(個人)
- (6) 大豆栽培を通じた社会貢献(常葉大学)
- (7) 地域第一次産業へのIoT技術の適用:水わさび栽培・養鱒・獣害対策における取り組み(沼津高専)
- (8) 富士市役所からの富士山観測:統計と今後の展開について(沼津高専)
- (9) 製造現場の効率化を目的とした工程管理システムの開発(沼津高専)

**【高校/研究】**

- (10) 災害情報の迅速な収集・発信のためのアプリケーション開発(沼津高専)
- (11) 西伊豆・南伊豆に生息するオオシマザクラはなぜクマリン含量が高いのか(蕪山高校、松崎高校)
- (12) 伊豆半島周辺のマイクロプラスチック調査～蕪山高校の調査4年間の結果～(蕪山高校)
- (13) イオン化傾向逆転電池の起電力測定(下田高校)
- (14) 河津川Y字合流点でのマイクロプラスチック調査(下田高校)
- (15) おんせん野菜で農業を元気に！～温泉水を活用した作物栽培の実践～(田方農業高校)

**【高校/活動】**

- (16) 静岡自慢の郷土料理探求&郷土料理と歩む未来の静岡の観光(蕪山高校)

下田高校、松崎高校といった遠方からの参加もあり、ショートプレゼンテーション、コアタイム発表がとても盛り上がりました。6名の審査員が採点を行い、最優秀賞、優秀賞、奨励賞を決めた。最優秀賞は、遺伝研(1)、沼津高専(7)、蕪山高校(12)が受賞しました。また、参加者の投票による審査も行い、蕪山高校・松崎高校(11)と蕪山高校(12)がエクセレンス賞を受賞しました。蕪山高校(12)は、最優秀賞とエクセレンス賞のダブル受賞でした。

**<成果、課題、今後の展望>**

ポスター発表については、研究発表だけでなく、活動発表も対象としたことで、参加者の幅が広がりました。又今後、若い研究者、活動者を中心に参加者の枠が広がったと感じました。

ただ、今回は募集開始が遅くなってしまい、発表数が目標より少なかった。来年度に向けて早目に各学校や個人にしっかり届くような公報/告知を心がけていきたいと思えます。

アナウンス時期の目標は年内で、これにより各学校が早目に計画を立てることが出来ます。アナウンスするときに、来年度の日程、開催場所に加えて、今年の発表会の状況も写真を含めた形で連絡したいと考えています。

◆歴史から紐解く伊豆の食文化 担当者:宇野秀彦、石川佐和子

<実施内容>

富士・箱根・伊豆地域はいにしえより、陸路としての「東海道」「下田街道」。海路における「駿河湾」「伊豆海岸地域」の結節点として、国内にとどまらず「東アジア」の影響も受け、様々な文化・情報の交流点として多様な文化を取り入れ、活かす役割を担ってきました。

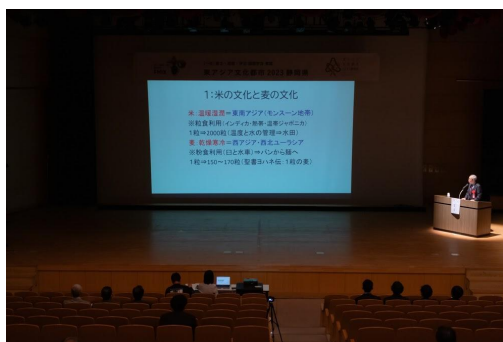
一方で「食文化」は諸条件(物・情報の伝達手段、技術革新など)で常に変化をし、またそれを享受する人々の感性も変化してきました。

そこで本事業では、この「風土」に彩られた「食文化」として、江戸時代に食されたこの地域の「献立(歴史的食文化)」である江川邸に伝わる婚礼料理に着目し、その「再現」により「食文化」の一端に触れることで、背景を共有・共感して頂くことを目指しました。また、多国籍の食文化が入り混じる現代において、その「献立」を中華風料理としてアレンジすることで、現代人にも受け入れやすい「献立」として再構築を目指しました。これらの料理を通じ、いにしえよりこの地にある豊富な食材及び食文化の魅力を提案・明文化し、更に情報発信していき、この地域を訪れたい方を増やすガストロノミーとしての可能性を探りました。

【基調講演】

テーマ: 東アジアと江戸の食文化

10:45~11:20 講師: 国士舘大学 名誉教授 原田 信男氏



【パネルディスカッション】

テーマ: 江戸時代の食文化から紐解くガストロノミーの可能性

11:30~12:40 パネラー: 橋本敬之氏(伊豆学研究会 理事長)、原田信男氏(国士舘大学 名誉教授)、柴山崇志氏(耕心庵 次五ゑむ 主宰)、関口寛氏(華味オーナーシェフ)

コーディネーター: 石川 佐和子氏(漁網・船具 塚田商店 代表)

内容:

江川邸に伝わる江戸時代の婚礼料理を柴山氏(再現)と関口氏(アレンジ)の手によりつくりあげられ、本年9月に江川邸にて試食会が行われました。それらを紹介しながら、

- ・橋本氏による今回の江戸時代に江川邸の献立についての説明
- ・柴山氏によるその献立の和食としての再現について体験・感想
- ・関口氏による江川邸献立を現代中華へのアレンジした過程や感想
- ・原田氏による今回の再現・アレンジプロジェクトの感想

などをパネルディスカッション形式にて紹介しました。



< 成果、課題、今後の展望 >

今回のプロジェクトにより、地域に根ざした歴史や食材をもとにしたすばらしい料理が誕生する事ができました。これらの料理をより多くの方に知って頂き、味わっていただける環境をどのような形でサポートできるかが今後の課題だと考えます。

また食またガストロミーとしてのテーマは、今回で実現できたように、学術と経済と結ぶことが出来る学会として良きテーマだと考えています。

◆伊豆仏像文化 担当者:室伏強、鈴木洋平

<実施内容>

「東アジア文化都市2023静岡県」東アジアDNAの源流と文化・芸術の多様な未来、に於いて「伊豆仏像文化」を開催させて頂きました。仏教の伝来と共にその信仰の象徴とし仏像があります。

インドで誕生した仏教はその信仰の象徴とし仏像と共に中国から朝鮮半島を経て、6世紀に、百済から伝教が伝えられたことに始まったとされず。西暦588年、蘇我氏が飛鳥に建立した法興寺は、わが国における本格的な寺院建設の最初の試みでもあり、日本人がまだ見たこともない異国文化の香り高い仏教寺院だったといえます。三島には、五大寺院と称される古寺院が、後世発掘された古代瓦などから、その存在を伝えられます。大興寺(市ヶ原廃寺・現在の大社町付近)、山興寺(塔ノ森廃寺・三嶋大社東側付近)、国分寺(泉町)、国分尼寺(南町付近)、天神原廃寺(川原ヶ谷付近)です。白鳳期から奈良時代(7世紀頃)の古代寺院です。三島には今から1200年以上も前にあった古代寺院の瓦をはじめ、古代中国の瓦、日本文化に大きな影響を与えた朝鮮半島の瓦この時代、三島のように中央から遠く離れた地域で、このように多くの寺院が集中して建立された点が注目されています。この様に伊豆国分寺がおかれた地に於いて奈良時代より流刑の地として伊豆は都から流人と共に多くの文化も伝えられてまいりました、その中で信仰の対象・心のよりどころとして伊豆各地に素晴らしい仏像文化が根ざし現在に至っており、願成就院の運慶作 国宝阿弥陀如来像・毘沙門天・不動明王・矜羯羅童・制多迦童子に代表され「かなみ仏の里美術館」の実慶作阿弥陀如来など各地に慶派の仏像が点在しております。また河津町の「ならんだの里」には平安前期の仏像が展示してあるなど伊豆全域に及んでおり、文化庁に新設されました「地域文化創生本部」が進める「観光・まちづくりなど文化関連分野と積極的に連携するなど、これまでの文化行政の枠組にとらわれず、文化庁に期待される新たな政策ニーズに対応した事務・事業を地元の知見やノウハウ等を生かしながら先行的に実施しますとあり伊豆に眠る仏像文化財の掘り起こしから地域文化創生そして東アジア文化都市交流へ寄与する事を目的といたします。以上の記実を基に以下フォーラムを開催させて頂きました。

【講演】

テーマ 知られざる仏像半島伊豆

講師 上原美術館 田島 整氏

「田島先生の講演では日本への仏像の伝来から奈良・平安時代の仏像が伊豆にあるのかそして未だ伊豆には表に出てきていない仏像があり伊豆の仏像を知り尽くしているからこそ伊豆仏像文化の可能性を熱くご講演頂きました。」





【パネルディスカッション】

テーマ 伊豆仏像文化のブランディング

コーディネーター

田島 整氏

パネリスト

- ・静岡県 文化財課 河合 修氏
- ・願成就院 小崎住職
- ・仏像好きアナウンサー 久保 沙里菜氏
- ・(一社)富士箱根伊豆国際学会 室伏 強氏

パネルディスカッションでは河合 修氏から行政の立場から今進められる可能性、小崎住職から国宝を守る立場としてのコメントそして仏像好きアナウンサーインフルエンサーとしての仏像への思い、伊豆八十八ヶ所に20年関わり伊豆の寺院に詳しい室伏氏より京都・奈良と比較するのでなく地方での木仏の聖地への可能性をコメント頂きました。







#### < 成果、課題、今後の展望 >

伊豆には公共施設として函南町に「かなみ仏の里美術館」河津町に「ならんだの里」そして民間施設「上原美術館」などが仏像美術館として現存し願成就院には天才仏師「運慶」作国宝が5体その他にも伊豆の寺院には貴重な仏像が点在致します。

課題と致しましてこの貴重な伊豆の仏像の存在及び可能性を行政・民間も興味が薄く昨年度の「鎌倉殿の13人」でも紹介され仏像に興味を示す女性が増えつつあるいま、「かなみ仏の里美術館・ならんだの里美術館・上原美術館」で連携を強化し伊豆の仏像「木仏の聖地」として発信していく仕組みづくりなど文化庁や静岡県の施策検討と民間との連携により「木仏の聖地」としてのブランディングの検討を進めて参ります。

日時	令和5年 10月 14-15日(日) 10時～ 16時
会場	施設名 葦山時代劇場(伊豆の国市) 映像ホール
入場者数	87人(14日34名 15日53名)

◆富士山絵伝 展示&アニメーション絵解きライブ 担当:逸見康成

<実施内容>

静岡県が有する独自の文化芸術表現として、世界ユネスコ文化遺産に登録され10周年の節目を迎えた富士山と、昨年末ユネスコ世界ジオパークに再認定された伊豆半島、この2つの国際的価値を融和させた現代版絵マンガ「富士山絵伝」に注目し、アニメーションを交えた語り部のパフォーマンスをおこないました。

**富士山絵伝**  
展示&アニメーション絵解きライブ

2023年 10/14(日)・15(日)  
10:00～16:00 入場無料  
葦山時代劇場 映像ホール

主催：一般社団法人富士・静岡・伊豆国際学会

**富士山絵伝** 四巻作は、富士山とその周辺にまつわる神話と伝説をもとに描いた絵マンガで、近代から現代までの様々なエピソードを描いています。この絵、ふしにこの物語のみを現代の技術で再現し、観る者に伝えるための新たな取り組みとして、富士山絵伝団体のアニメーション化を試みました。物語を通して、地球の恵みを受け、私たちの未来のありように思いを馳せてください。

**富士山絵伝 4巻展示**  
会場：映像ホール 無料・予約不要  
14日 10:00-12:00 14:00-16:00  
15日 10:00-16:00  
※同日も順次展示しています

**富士山絵伝アニメーション語り部絵解きライブ & 制作者クロストーク**  
会場：映像ホール 無料・要予約 定員30名  
●11:00～12:00 ●13:00～14:00 (開催は毎日15分間)

お問い合わせ 藤口正 藤口紀子 harajuku@icbcoo@gmail.com

ご予約

実施内容・成果





#### <成果、課題、今後の展望>

視聴者の感想を受け、地域では意外に知られていない神話や伝説という地域DNAを総合的に楽しんで頂けたように思います。

イベントにお越し頂いた中伊豆の中学校の先生からは、「総合的な学習の時間で子どもたちの教材として活用させて欲しい」と相談があり、山梨でミュージカルの組織運営されている方からは、「静岡と山梨の垣根を超えて交流しながら、子どもの劇にしてみたいから打ち合わせしたい」とのご依頼があり、そして、今回ご協力を頂いた語り部のメンバーの中からは「今度は人形劇にしてお披露目したい」というアイデアを頂くなど、東アジア文化都市を契機に、着実に未来に繋がる一歩、文化交流を通じた平和実現への道を踏み出せた実感を得ております。

今後とも、国境や世代の垣根を超えて、地域の文化遺伝子を未来に伝えていくための活動を進めて参ります。